資料3

富山県自転車活用推進事業費補助金を活用して（画像で見る概要）

【　はじめに　】

自転車好きがイベント（事業）をすると考えたら、サイクリングかレースになりがちなので、他の団体がやってない文化的な講演会も面白いのではと考えた。そこで、雑誌やCS番組でも活躍のサイクルフォトグラファー”辻啓”氏の招聘を考えた。

辻啓（つじ けい）…サイクルフォトグラファーとして、グランツールなどのビッグレースを撮影。大学時代、衝動的に自転車を段ボールに詰め込んでイタリアに行き、そのままイタリア留学を決めた。サイクリングタイムというウェブサイトでトランスレーター（翻訳）兼ライターとしての仕事を始め、東京オリンピックの時には、インスタライブで解説も。Twitter のフォロワー 3.4 万人　シクロクロスの現役選手

＜1 日目＞
氷見を出発
新湊で渡船に乗船

＜1日目＞
東富山からサイクルトレインに乗車

富山の湾岸をライドしてネタ探し

＜1日目＞
「魚の駅生地」にて同伴メンバーと記念写真

＜1日目＞
辻氏、サイクルトレインの構造を確認

筧五郎（かけい　ごろう）…NHK BS1 にて放送されている『＊**チャリダー**』に出演しており、坂好きサイクリストとしても有名。また全日本最速店長選手権 2017 覇者でもある。
＊自転車（サイクルツーリング）をテーマとした教養番組・情報番組

＜2日目＞筧氏がトークイベントに参加
新潟から日本海側をライド、ようやく氷見に到着。昼食時にお話しさせて頂きました。

メインのトークショーとパネル展示を開催

＜2日目＞観客の様子
上越から高速で来られた人も。

＜2日目＞会場ステージ
開始１０分前からトーク開始。

＜2日目＞ツールドフランスの体験話に熱が入る。

富山県自転車活用推進事業費補助金を活用して（本音編）

‹‹‹　県の補助金で辻啓氏の講演会を開催することができました　›››

NPO 法人ベイツーリズムひみ

１　”いろいろとやりたいことがあるけど、できない。立ちはだかる障害”

自転車が好きで、いろんなイベントを開催したいが、先立つものがない。そこで、補助金を申請しやすいNPO を設立。個人や単なる集まりでは補助金は難しいと感じたし、信用を裏付けするものがないと、だれも信用してくれない。こんな理由でネットでNPO の事を勉強、会計や事務手続きすべて行う必要があるので日商３級簿記も取得。県の補助金を取得するまでの道のりはちょっと長かった。

→→→→→　補助金制度は使いやすさがポイント、でも血税なので無駄にはできない。

２　”仲間がいるからイベントの運営はそんなに難しくない（個人の感想）”

だまされて３５歳からロードバイクに乗る。知り合いも増え、チームにも入った。なじみの自転車店もできて、いろんなレースに参戦。近年サイクリストが増えて、要望も多様化していてニッチなものも事業として成り立つと感じたし、SNS の活用は場合によっては効果が見込める。自転車仲間の協力を得て事業の計画を進めた。

→→→→→　いろんな考えを持っている人が多くいます。ニーズを知るアンテナの感度次第。

３　”思いのほか広報の効率の悪さに気が付く”

年末のＮＨＫ紅白歌合戦ですら３５％の視聴率、ましてや弱小 NPO のホームページなど仲間内しか観ていないのが現実。そんな状況の中での当イベントの参加者集めは四苦八苦、人が集まらないと講師に失礼だし、当然赤字になる。自分自身が好きで得意な分野だけに、周囲の現実が見えてなかった、聞こえなかった。

→→→→→　共催や後援、協賛の立場の人や外部の意見を聞き、考えを（現実）取り入れる。

４　”そんな時に協力者が・・・、それも偶然か必然か？”

できる限りの広報はしたが参加者は思いのほか集まらない。そこに何故か”お助け人”が現れる。イベント開催の１か月前、乗鞍畳平（標高２７００ｍ）で練習の合間に雑談をしたおかげなのか、ネットに「氷見市で開催される辻啓氏のトークショーに行きます」との書き込み、その人はNHK-BSの「チャリダー」で有名な筧五郎氏。その日から参加者が急増、世の中、何が功を奏するにか予想できない。

→→→→→　やはり口コミなのでしょうか、有名人の一言は強力であった。

５　”終わりよければ・・・、でも、やっぱり赤字”

イベントは大成功、でも基本全員ボランティア。好きな人じゃないとトライできないし、本業の仕事がおろそかになる。まあ、趣味みたいなものだから仕方ないかな。資本的な積み重ねができないので、毎回赤字回避の真剣勝負。そんなことわざわざ積極的に取り組む人って少ないですよね。

→→→→→　けっこうイベントにはエネルギー要りますね。慣れるか、あきらめるか。

６　”結論”

山あり谷ありでしたが、県の支援があるから思い切りやれました。また、当団体に対して補助金の決定の判断をしていただいたことに感謝しています。今後は、こんな私でも当制度を活用できたことを多くの人に周知できるかが、私の責務（恩返し）ではないかと思いました。

→→→→→　また、本補助金制度を活用して、富山の自転車活用推進の一助となれば。